

第 54 回（令和 4 年度） 社会保険労務士試験 速報講評

ユーキャン社会保険労務士講座指導部

■ 選択式 ■

●全体●

全体として、労働科目（問 1～問 4）の難易度が高く、社会保険科目（問 5～問 8）が平易な問題でした。

●労働科目●

労働科目では、労働基準法及び労働安全衛生法が比較的得点しやすく、労働者災害補償保険法は普通からやや難しめのレベル、雇用保険法と労務管理その他の労働に関する一般常識はやや難しいレベルといえます。

全体的に問題文が長く、また、判例からの出題が、労働基準法のみならず、労働者災害補償保険法と労務管理その他の労働に関する一般常識でもあったことが、例年とは少し異なった印象ですが、問題文をよく読めば、正解を得ることができたでしょう。

また、労働者災害補償保険法と雇用保険法では、具体的な当てはめを要する出題がなされました。ただし、問われていること自体は基本的なものですので、正解を得ることは可能でした。

●社会保険科目●

社会保険科目では、社会保険に関する一般常識が普通からやや難しめのレベルであったほか、健康保険法と厚生年金保険法は普通レベル、国民年金法は易しいから普通レベルといえます。

社会保険に関する一般常識は、すべての空欄が過去に出題がない項目からの出題でしたが、空欄 C と空欄 E は、数字がらみで比較的正解を得やすいものでした。

厚生年金保険法は、空欄 C と空欄 D が具体例による問題でした。空欄 C は国民年金法の知識も必要となる難問でしたが、空欄 D は改正がらみのシンプルな問題でした。

国民年金法は、全 8 問の中で最も易しい問題でした。



●労働基準法及び労働安全衛生法●

科目全体としては、難易度のバランスが良い問題となっています。労基の問1と問2は確実に正解してほしい問題であり、その他の問題も問6以外は得点を重ねることが可能です。安衛は問9が難しいですが、問8又は問10で正解がほしいところです。

●労働者災害補償保険法（徴収法を含む。）●

全体的には、やや難しめですが、易しい問題と難しい問題の両極端な問題がほとんどでした。問1は改正された認定基準、問4～6は事例問題、問7は「再発の定義」と、難しい問題が多く、苦勞したと思います。また、「3つ」「4つ」を組み合わせた新しい形の問題も出題されました。

【補足】

徴収法の6問は、易しい～普通レベルの問題でした。細かな論点もありますが、基本事項からの問題が多く、高得点も可能です。

●雇用保険法（徴収法を含む。）●

全体的には、普通レベルといえます。細かい論点も含まれていますが、通常の学習で正解は判断することができます。問1は改正事項からの出題です。問3と問5を確実に正解したうえで、できるだけ多く上積みしたい科目です。

●労務管理その他の労働及び社会保険に関する一般常識●

労働一般常識（問1～問4）は非常に難しいレベルでしたが、問5以降の社会保険一般常識は易しい・普通レベルの問題が多くありました。労働一般常識で1点、社会保険一般常識で3～4点確保したいところです。

●健康保険法●

全体的に普通レベルといえます。例年通り通達から多く出題されており、見たことのない論点の選択肢も多くありました。ただし、問2や問10など、確実に正解することができるものもありました。

●厚生年金保険法●

ほぼ易しい～普通レベルの問題であり、高得点を狙える科目です。問5・問7などは、正誤判断をすることが困難な選択肢（正解肢以外）もありますが、正解肢がわかれば、得点することが可能です。問9は、改正事項の誤りのみで正解を得ることができます。

●国民年金法●

全体としては、易しめのレベルといえます。問2以外は通常の学習で正解を得ることが可能で、高得点も狙えます。ただし、問題文がやや長く、落ち着いて問題に取り組めたかどうかで得点に差がつきそうです。